

29年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
入荷動向	国産材	7.1	0.0	△ 14.3
	外材	△ 10.0	△ 20.0	△ 10.0
在庫動向	国産材	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	外材	△ 20.0	△ 20.0	0.0

・国産材ラミナの入荷は2月のやや増加が、3月は横ばい、4月は減少。外材は3ヵ月連続して減少。

・国産材ラミナの在庫は2月の横ばいが、3月、4月はやや減少。外材は2月、3月の減少が4月は横ばい。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
国産材	21.4	14.3	7.1
欧州材	25.0	0.0	△ 12.5
その他	50.0	75.0	50.0

・国産材ラミナの入荷価格は強含み。欧州材は2月の強含みから4月は弱含み。その他ラミナは強含み推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギ・カラマツ共に1月中旬までは調達に苦労したが、下旬～1月末にかけてはある程度まとまった量を確保できた。季節的要因で乾燥工程やプレス工程に遅れが生じていることもあり、在庫量は一時増加。3月以降は生産量が安定する見込みであるが、北海道は出材量が減少する時期でもあり、在庫量も減少と見込む。

・受注材に引っ張られ、依然としてラミナの動きは活発。外材（米ヒバ）は原料高でやや減少傾向。好調な住宅着工数を背景にどの工場も在庫は少ないまもう少し続くだろう。

(ラミナ価格動向)

・スギ・カラマツ共に原木価格が高騰しており、現状の価格では厳しい模様であるが、製品相場が安値安定の状況であり、価格転嫁が出来ないため横ばいをお願いしている。

・国産ラミナは荷動き好調かつ原木価格の上昇で、ラミナ価格の上昇が続く。欧州材ラミナは為替が円にやや有利となっており、横ばいから若干下がるのでは？米ヒバは原産地カナダで米スギの代替需要が一段と進んでおり、米スギに引っぱられて価格は急騰。

29年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
生産動向	国産材	7.1	0.0	0.0
	WW集成管柱	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	RW集成平角	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	△ 12.5
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	7.1	0.0	7.1
	WW集成管柱	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	RW集成平角	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	米マツ集成平角	0.0	0.0	△ 12.5
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産は2月の微増が、3月、4月は横ばい。WW集成材管柱及びRW集成平角は2月、3月のやや減少が、4月は横ばいに。米マツ集成材平角は2月、3月の横ばいが、4月は減少。

・国産材ラミナの出荷は2月のやや増加が、3月は横ばい、4月はやや増加。WW集成材管柱及びRW集成平角は3ヵ月連続して減少。米マツ集成材平角は2月、3月の横ばいが、4月は減少。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
スギ集成管柱	8.3	0.0	0.0	
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0	
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0	
WW集成管柱	12.5	12.5	0.0	
RW集成平角	25.0	12.5	0.0	
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0	
WW集成平角	—	—	—	
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0	

・スギ集成管柱の出荷価格はやや強保合、ヒノキ集成材柱、集成土台及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は2月、3月の強含みが、4月は横ばい。

・米マツ集成平角、米ヒバ土台角及びカラマツ集成材平角は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・スギ・カラマツ共に安定した需要があるが、季節的に生産量が減るため残業で補っている。常時キャパシティを超える受注となっているため、出荷は横ばいで推移。春以降は災害公営住宅も予定があり、出荷量は安定する。

・生産が追いつかない状況がまだ続く。よって荷動きは高いまま横ばいとなり、4月以降にようやく少し落ち着くのではとの見方。米ヒバ集成土台は、国産材と同様にフル生産が続く。荷動き高いまま、4月には一度落ち着くと思う。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギは大手ビルダー向けがメインであるが、集成材大手メーカーが新工場を稼働させるため、値上げ要素はない。横ばいと見込むが、タイミングを見て値上げしたい。カラマツは土台、平角共に横ばい。

・国産材（スギ、ヒノキ）集成材は原木価格の上昇で強含み、特に値段が下がったまま値上げ出来てなかったスギ集成材は若干値段が戻ったと聞く。欧州材系集成材は強含みで続いているが、需要が落ち着く4月以降にちょうど為替円高時に手当てした材が入ってくることで少し値段が下がる可能性もある。米マツはT社が年始に値段据え置きと宣言、値段は横ばいで推移する。米ヒバ土台角は2016年6月に値段を上げて以来、横ばいで推移している。